

校長 今 西 富 造

「夏至と言えばあじさい」と言う人はいません。やはり梅雨にあじさいです。しかし、夏至は梅雨の真っ只中にあります。やはり花それぞれがつイメージなのでしょう。

万葉集にはあじさいを詠んだ歌が2首ありますが、古今和歌集から新古今和歌集まで一首もないそうです。源氏物語や枕草子にもないそうです。花の色が変わり、実を付けることがないから、忌避されたのでしょうか。あじさいは一時期、日本人から忘れ去られます。

あじさいの 八重咲くごとく

八つ代よにを いませ我が背子

見つつしの偲はむ

橘たちばなの 諸兄もろえ

意味

あじさいが 八重に重なり次々咲くように  
いつまでも お元気でいてください、あなた  
私はあじさいを見るたび、偲んでおります



アジサイの原種に近い

気がつきましたか。橘諸兄は当時の政治の実力者です。その大柄の男性が女性になりすまして詠んでいるのが、なんとも戯わけていてお茶目です。宴席だったのでしょうか。

アジサイは草花のようですが、落葉低木です。日本が原産なのですが、今私たちがよく見かけるアジサイは別で、西洋アジサイと言います。

実は、幕末来日したシーボルトが日本にしかないアジサイを欧州に送り、これが盛んに品種改良され、ボールのような花の豪華な西洋アジサイになりました。そして、それが日本に逆輸入されたのです。

「お帰りなさい。派手になったね。」